

令和7年度 第5回教育委員会会議録

日 時 令和7年8月20日（水） 10時26分～11時06分

場 所 賀田小学校 多目的室

議 題

審議事項

- （1）令和7年第3回定例会 尾鷲市一般会計補正予算（第5号）（案）
について（教育総務課・生涯学習課）
- （2）財産の取得について（学習用一人一台端末）
- （3）令和6年度教育委員会の活動の点検・評価報告書について

出席者

教育長	田中 利保
委員（職務代理者）	内山 善嗣
委員	北裏 佳代
委員	米倉 すが
委員	榎本 加奈子

出席事務局職員

教育総務課長	柳田 幸嗣
教育総務課調整監	渡邊 史次
生涯学習課長	世古 基次

教育総務課主幹兼総務係長	柳瀬 誠
教育総務課主幹兼学校指導係長	西川 彰哉

10時26分 開会

教育長：おはようございます。傍聴希望の方がみえていますので、入室を許可してよろしいでしょうか。では、お願いします。今日は賀田小学校の多目的室をお借りしての会議となります。とちのもり保育園の視察ということで、子どもたちの様子も含めて見てもらいました。所管は福祉保健課になるんですが、教育委員会としても就学前教育ということで知っておいてもらいたいということと、賀田小学校との連携で大きく関わってくると思います。例えば、子どもたちが夏に暑くて外で遊べない時にこの部屋でエアコンをつけて3輪車に乗ったりして、賀田小学校にも非常に強力してもらっています。先ほど視察させてもらいましたが、なかなかいい雰囲気で行っていたと思います。4月開園で、まだまだ始まったばかりで慣れていない部分もありますが、子どもたちがここに入ってよかったなと思ってもらえるようにしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。では、令和7年度第5回教育委員会の会議に入りたいと思います。前回会議録署名委員はA委員とB委員でした。今回会議録署名委員はB委員とC委員ということで、よろしくお願いします。教育長報告の前に、少しお時間をいただきます。7月30日に起こったカムチャツカ半島沖地震による津波注意報・津波警報ということで、昨年は日向灘の地震でドキッとさせられて、いろんな改善点を洗い出して、校長会でも話をしたところですが、今回もまた遠く離れた場所の地震で津波警報が出たということで、少しお話させていただきたいと思います。津波警報が出てすぐに7校の校長に電話し、職員の出勤状況、クラブ等の実施状況を把握して、これからどうするか、校長と話をしました。一つの例で言うと、向井小学校は自由水泳をやっている最中で、学校が避難施設になっていて逃げる必要はないので、水泳が終わってからすぐ家に帰すんじゃなく、保護者に連絡して対応するように指示したところ、保護者が迎えにきて、そのまま学校で一緒に避難した、という例もありました。賀田小学校では、子どもは登校していませんでしたが、浸水域のコミュニティーセンターで子ども7人がボランティア2人と活動していたので、すぐに9人で学校に避難しました。町のほうからも2世帯ほど避難してきたとのことで、運動場を開放しました。輪内中学校も教員だけでしたが、浸水域なので賀田小学校に避難するよう指示し、5人ほど賀田小学校に来て、正午過ぎくらいまで待機したという状況がありま

した。中村山のほうは、ちょうど尾鷲小学校で研修をしていて、教員がほぼ全員いたので、それと学校に避難してきていた家族や子どもたちと一緒に中村山に避難しました。生涯学習課のほうで天文科学館を開放してくれて、エアコンもつけてくれました。職員は外の日陰で、子どもや一般の方は建物の中に入ってもらいました。僕も様子を見に行ったんですが、郵便局の職員がたくさん避難グッズを持って避難していました。教頭とも相談し、そろそろお腹も減ってくるだろうなということで、課長が防災のほうに言ってくれて、備蓄食料を持って行ってくれました。遠い場所の地震だったので、電源も確保されていて心配はなかったんですが、近いところの地震だと電源が落ちた場合に、夏場の暑い中での避難は難しさがあって、対策としてはテントなどもいるのかなと思いました。水・食料・簡易トイレあたりも備蓄をしておかないといけないのかなとも思って、各学校とも見直しが必要なのかなとも思います。そこで一つあったのが、子どもの引き渡しですね。もう大丈夫という状況になってから保護者が迎えに来た時に、すぐ帰すんじゃなく、その子どもの家の場所を知っている教員が、ここの家だったら大丈夫と判断して、どこに避難するのかちゃんと確認を取ってくれと指示しました。浸水域にある家に帰るんだったら学校にいてくださいということを言わないといけません。教育委員会の3階会議室も開放して、中村山に避難していた子どもが5人移動してきていて、家族が迎えにきた時も、絶対に浸水域に行かないよう言って帰らせました。引き渡しの際に、どこに避難するのか確認した上で避難してもらうのが大事なので、そこは徹底してもらわないといけません。暑さ対策についてはどこまでできるのか自信がないんですが、暑さと合わせた津波ということではリスクがあって、寒さよりも暑さのほうが難しいのかなと思います。そういうことで、今回この地方は大きな被害がなかったんですが、もう一度気を引き締めて、いくつかのパターンでシミュレーションしておくことが大事なので、また校長会でもこの話をさせてもらいたいと思います。では、事項書4の教育長報告をさせていただきます。

【主な教育長報告】

- 8月 1日（金）部活動に関する会議
- 8月 2日（土）おわせ港まつり
- 8月 4日（月）行政常任委員会（生涯学習課）
- 8月 4日（月）市長表敬訪問同席（中学女子野球）

8月 6日（水）防災講演会（川口教授）

8月 7日（木）尾鷲市・熊野市・鳥羽市教育委員会懇談会

8月19日（火）民生委員推薦会

8月20日（水）とちのもり保育園視察

教育長報告について何かありましたらお願いします。ないようですので、次に事項書5、審議事項に入りますので、傍聴の方はここでご退席をお願いします。

報道退席

【秘密会】

【全件承認】

教育長：ありがとうございました。これで審議事項を終了します。次に、事項書6、その他で何かありますか。

D委員：教育長が先ほど言われていた津波の避難について、ここで地震があつて津波が来る場合と、遠くで地震があつて津波が来る場合があると思うし、猛暑の中の対応として、中村山に逃げるのはマニュアルどおりでいいんだけど、これから果たしてどうなのかという気がして、暑さによる二次被害が出るんじゃないかなと。例えば、電源もあつて、情報も来ているんだから、尾鷲小学校の3階でまず待機して、情報が入ったら中村山へ逃げるというようなことも、これからは考えてもいいんじゃないかという気がしました。自分も実はその日に尾鷲にいらなくて、夏休み中で親がいない中、高学年の子どもたちだけで一緒にいた場合、どうやって指示していったらいいのかなと思いました。学校にいたらマニュアルがあるからいいんだけど、特に今回は夏休みで猛暑の中だったので、そのようなことも思いました。

教育長：今回、子どもたちだけで尾鷲小学校へ逃げてきた子がいて、僕も市役所前で子どもたち3～5人に会って、中村山へ逃げると言っていたんだけど、ちゃんと水筒を持っていて、昼過ぎになって教育委員会の建物で預かった子どももちゃんと避難グッズを持って避難していました。それはやはり南海トラフへの対応の取組が生きてきているんだということは評価できると川口教授も言ってくれました。

B委員：現実、近くで地震があつて、学校が休みの場合、マチコミで連絡しても回線が込み合って、つながらないと思います。みんな回線が一杯

でつながらないんで、一斉連絡も難しいですよ。

教育長：自分がいる場所がどういう場所なのかを知っておかないといけないし、知った上でここは浸水域だから親がいようがいまいが逃げないといけないというあたりは、中学年から高学年にかけてはそういう判断をしてとりあえず逃げるようにしないといけません。尾鷲小学校は翌週に登校日があって、どんな対応をしたか児童に聞いたらしいですね。またそのへんもわかったら皆さんにも報告したいと思います。中村山へ逃げても、ずっとそこにいるわけにもいなくて、もう1回学校へ戻るという判断もできるんだけど、電源があるんだったらそのまま下りてきて中央公民館の講堂もエアコンがあるし、今回教育委員会の3階も開放して、来る子どもを迎え入れたりもしました。中央公民館で20メートルくらい標高ありますよね

事務局：そうですね。中村山では呼びかけもしたんですが、企業なんかはマニュアルで中村山となっているから、そこから動かないというのもあって、先ほどの話とも関連して判断が難しいところでもあるんですが、一定の考え方や基準は必要だと思いますが、東日本大震災の時に言われた「津波てんでんこ」ということで、この時はこうしなくてはならないだけに縛られずに、ある程度の方向性や大事なポイントは押さえながら、そういうことも必要なかと思います。一斉送信しても、どこも通信機関はパンクしていて機能しないので、平時からそのへんをどう意識づけて行動できる人材を育てていくか。むしろ、今の子どもたちが大人になってくれば根付いていくので、たぶん今はそういう過渡期にあるんじゃないかという気がしますので、先ほど教育長が言われた子どもさんたちはそういうことが身に付いているかと思うので、その取組が大事なんじゃないかなと思います。

D委員：経験の積み重ねやね。

事務局：逆に大人のほうがマニュアルどおりにしか動かないところがありますね。

教育長：6時過ぎに見に行ったら、まだ郵便局の人は残っていましたね。

事務局：警報が出ている間は残るという方もいれば、状況を見てもう帰るという方も出てくるので、警報が出れば避難は絶対必要ですが、やはり皆さんが言われるように一定の情報があって、環境も整っていて、十分判断できる材料があれば、危険性のない範囲であれば、という事はあるかと思います。

B委員：保険会社の職員も中村山に逃げていたみたいで、暑すぎて気分が悪かったみたいです。

事務局：公民館へどうぞとも声掛けはしたんですが、中村山じゃないといけないのでと断られました。

事務局：今回、遠方で起こった地震による津波ということで、タイムラグが非常にありました。イレギュラー中のイレギュラーなんですが、今回のこの件を受けて暑さや飲み物など、課題がいくつも出てきます。役所の関係課で集まって情報共有して、ある程度の方向性を出して、市民の方にもフィードバックしていくことになると思うので、その積み重ねが今後生きてくるのかなと思います。

教育長：意識をちょっと高めるといふのには去年も今年も大事だったかなと思うし、どうしてもマンネリ化してしまう中、一つ大きな課題を見つけていくことも大事なので、その課題も次に生かせるということも出てくるということですね。そういうことで、生かしていきたいなと思います。よろしいでしょうか。では、その他の項を終わります。事項書7の次回日程についてお願いします。

【日程調整】

教育長：では、次回は9月12日（金）午後1時からということでお願いします。これで第5回教育委員会を閉じます。ありがとうございました。

11時06分 閉会